

古墳時代の土器の見方？ やっぱり難し～い!!

土器と集落から読み解く古墳時代の姿!!

去る3月20日（火・祝）、新潟市歴史博物館（みなとぴあ）を会場に、本会の連続学習会「第12回 弥生・古墳講座」を開催いたしました。今回は「古墳時代の越後・佐渡の集落と土器」と題し、春日真実さん（新潟県埋蔵文化財調査事業団専門調査員）からお話しいただきました。

古墳時代といえば、その文化を象徴する古墳ばかりに注目しがちですが、そうした巨大な構築物を造りあげた人々の暮らしにも目を向けなければなりません。しかし、人々の生活の舞台となった集落の発掘の様子、そして、考古学では時代を決定づけるいわば「もの差し」となる土器の見方については、なかなかまとまった話をお聞きする機会はありません。今回は県内の多くの古代遺跡の発掘調査に関わり、古墳時代から古代の土器の変遷を研究する県内の第一人者である春日さんに、とても難しい課題に取り組んでいただきました。

春日さんはまず、時代を決める手がかりとなる土器や遺跡の見方、そして実際の土器や集落がどのように実測図に表されるのかを説明してくださいました。遺跡の現地説明会や講演会に参加される方の中にも、考古学を専門的に学び、実際に実測をした経験がない限り、土器や遺構の実測図が何を意味しているのかを正確に読み取ることは難しいものです。参加者のみなさんは、春日さんの丁寧な説明でそれを理解することが出来たのではないのでしょうか。

続いて、話は「土器編年による時間軸の設定」に移ります。これはきわめて専門的な話で、遺跡から発掘された土器を時代順に並べ、時期ごとの土器の特徴を読み解いていく作業です。それぞれの時期の土器の特徴をひとつひとつ説明していただきましたが、これがなかなか難しい。考古学という学問の難しさを実感します。それでも、実測図を示しながら、土器の特徴を丁寧に説明していただいたことは貴重な経験となりました。

休憩をはさんだ後半は、いよいよ、県内の古墳時代集落の発掘成果に迫ります。しかし、遺跡はいろんな時代の生活の痕跡が残されており、いくつかの時代の建物が重なり合っているのが一般的です。一言で古墳時代といっても、すべての建物が同じ時期に存在したわけではなく、



その前後関係を明らかにしていかなければなりません。その建物の時代を決定する証拠が土器です。そこで、前半に読み解いた「土器編年」を頼りに、同じ遺跡内の集落の中で、どの建物とどの建物が同じ時代のものかを割り出していきます。こうした緻密な作業を通じて県内の古墳時代集落の時期ごとの建物の配置が明らかにされていきます。春日さんは、このようにパズルのピースをひとつひとつ当てはめていくような発掘調査の整理作業を説明しながら、時期ごとの集落の特徴を読み解いていきました。

今回の話は残念ながらここまで。当時の人々の具体的な暮らしぶりや時代の様相などもっと聞いてみたい…という要望も参加者のみなさんにはあったと思いますが、時間切れとなりました。それでも、実測図の見方から始まり、発掘調査の成果がどのような作業を経て時代の決定に至るのかを懇切丁寧にご説明いただき、大変有意義な学習会となりました。参加されたみなさん、ありがとうございました。 (事務局)

----- 【参加者の感想】 -----

余り興味も知識もなかったテーマでしたが、真面目な講義を聞いているうちにおもしろく感じて、“なるほど～”と思える様になりました。史実は遺跡・遺物・遺構しか物語るものがないと判りました。歴史のロマンです。実際に遺跡発掘の現場で土を掘りおこす体験をすれば、もっと身近に感ぜられると思います。

古代の営みが、詳しく、分かり易い説明で満足しました。またこのような機会を作って下さい。初めて参加しましたが、学習をさせてもらいました。前半かなり難しかった。後半は、例(写真)が出て説明があり、少し理解できてきた。遺跡の時代の物差しが土器である事を知った事は、大変有意義で感謝。

いつも、お話をお聞きしている時はしっかり解ったつもりですが、すぐ忘れてしまいます。今回、3・4個しっかり覚える事が出来るお話があり、出て来たかがありました。印象深いお話が時々あって、大変良かったです。

専門的な話は多かったと思いますが、用語の説明や地震の話など、今まで聞いたことがない話も多く、楽しくきかせていただきました。講師先生の個人的な見解などで、昔の人々のくらしなどもおきかせいただけるとありがたい。土器の見方もはじめてききました。今までどれとどれがどうちがうのか全くわからなかったが、少しイメージがわきました。ありがとうございました。

土器はむずかしい。今日は型からと教えられた。よかった。

興味だけで訳も解らずいろんな講演会に出席していますが、土器や遺物の絵を見てもさっぱりわからないのが実状です。今回、実測図の見方の講義を受け、こういう風に見れば良かったのかと思った次第です。とても参考になりました。

大変丁寧な説明で、特に土器図の見方など非常に参考になりました。

熱心な講義、有難うございました。土器はむずかしいですね。機会がありましたら、またお願いします。

長時間にわたって詳細に具体的に(多岐にわたって)資料を発表されており、感嘆、賞賛しますが、具体物の発表だけでなく、時代背景や支配者、生活ぶり等の解説・考察がほしかった。

四半世紀の時を経て、遺跡の活用は新たな段階へ・・・

国指定史跡・古津八幡山歴史の広場に いよいよ、「弥生の丘展示館」オープン!!

快晴に恵まれた4月21日（土）、新潟市秋葉区蒲ヶ沢、花と遺跡のふるさと公園内（新津美術館脇）に、いよいよ「史跡 古津八幡山 弥生の丘展示館」がオープンしました。当日は春の土曜日ということもあり、多くの市民が訪れていました。

新津市（当時）古津八幡山遺跡は1987年、磐越自動車道の土取り工事ともなう発掘調査で発見され、県内最大規模の古墳と弥生時代後期の大規模な高地性環濠集落であることが明らかになりました。いち早く遺跡の保存運動に乗り出した地元青年会議所のメンバーを中心に結成された「新津の古代と今を考えるつどい（新古今集）」による講演会の開催、市の文化財調査審議委員による全面保存をもとめる市長あて提言書の提出などを皮切りに盛り上がる保存の声、調査が進むにつれて次々に明らかになる遺跡の重要性。現在の本会の母体とも言える「文全協新潟事務局」が新潟大学の学生によって組織され、「文全協新潟通信」によるニュース活動で運動を支援しはじめたのはちょうどこの頃でした。

その後、保存運動は地元を中心に約1万名の署名を集め、1990年末には県と市が八幡山古墳と弥生集落をふくむ丘陵のほぼ全域19.7ヘクタールを保存することに合意。南半部の居村丘陵の古代製鉄遺跡群が丘陵ごと消滅したことは残念でしたが、貴重な里山の景観の中に弥生時代の高地性集落跡をまるごと保存できたことは画期的な成果でした。遺跡は2005年に国史跡に指定され、同年の広域合併によってその整備と活用は新津市から新潟市に引き継がれました。本会の甘粕健会長は遺跡保存整備検討委員会の委員長としてその陣頭指揮にあたってきたのです。

今回のガイダンス施設オープンは、こうした4半世紀にわたる運動のひとつの到達点と言えます。本会にとっても活動の大きな成果で、たいへん感慨深いものがあります。しかし、史跡公園の整備はまだ途上であり、市民の財産として活用し続けていくことは容易ではありません。今後も遺跡の動向を見守っていきたいと思います。ぜひ訪れてみてください。（木村英祐）



体験メニューを楽しむこどもたち



遺跡登り口に立つ標柱（甘粕会長筆）

今年の文全協大会は岡山県倉敷市で開催！

文化財保存全国協議会第43回大会のお知らせ

2012年度の文化財保存全国協議会の第43回総・大会が、岡山県倉敷市で開催されます。大会では、岡山県を中心に全国の歴史的景観とまちづくりに関する報告が予定されていますが、新潟からも「佐渡金銀山の世界遺産登録にむけた町並み保存の現状と課題」と題する報告があります。大会前日には、古代の山城である国史跡・鬼城山、作山古墳、備中国分寺跡ほかの貴重な遺跡、そして倉敷川畔伝統的建造物群などを訪ねる見学会もあります。見学会・大会は文全協会員でない方も参加可能です。全国大会にもふるってご参加下さい。

テーマ：伝統的建造物群の保存とまちづくり～歴史的景観とくらしの調和を考える～

日 時：2012年6月29日（金）全国委員会・総会（倉敷芸文館）

6月30日（土）見学会・懇親会（いずれも、要予約）

7月1日（日）大会（倉敷芸文館）

大会の詳細についてはすでに『文全協ニュースNo. 192』に掲載されていますので、会員の方はそちらをご参照下さい。文全協の会員でない方で、大会要項が必要な方は、文新協事務局までご連絡下さい。

催し物掲示板

詳細は、同封のチラシをご覧ください。

○新潟大学あさひまち展示館ボランティア友の会企画講演会

「古人骨の見方－東京寛永寺子院出土の江戸時代人骨に見る特徴－」

日時：6月2日（土）15:00～

会場：新潟大学旭町キャンパス内 医学部研究棟1階 第4講義室

○新潟大学旭町学術資料展示館 企画展関連講演会

「新潟市内の津波被害と1833年庄内沖地震」講師：矢田俊文さん

日時：6月9日（土）13:30～

会場：有壬記念館

※事前申し込み必要

編集後記

今回は3月に行われた第12回弥生・古墳講座の様様、4月にオープンした古津八幡山遺跡のガイダンス施設についてお伝えしました。文新協では、いよいよ韓国への遺跡見学旅行を開催することにしました。それに関連した学習会も予定しています。詳細は、同封のチラシをご覧ください。

この『会報』は文全協会員でなくても、文新協行事に参加された方には、可能な限りお送りしています（ご参加なき場合は郵送を取りやめる場合があります）。名簿は本会からの連絡にのみ使用し、個人情報保護に留意し厳正に管理しています。会報送付がご迷惑な方は、事務局までご一報下さい。

文化財保存新潟県協議会事務局（入会についてのお問い合わせも）

ホームページ：<http://www10.ocn.ne.jp/~bunsin-k/>

E-mail：bun-sin-kyou@js8.so-net.ne.jp